



園だより

第7号

令和3年 1月12日
駿河台大学第一幼稚園
園長 田所 恒子

新しい年を迎えて

新年、明けましておめでとうございます。

新年を迎えるにあたり、誰もが一日も早く安心して過ごせる日が来ることを願ったことでしょう。しかし、日に日に新型コロナウイルスの感染者数が増加し、緊急事態宣言が再び発令されました。期間は、1ヶ月を目安とされていますが、2~3ヶ月かかるとも言われます。三学期は、初めて緊急事態宣言下で幼稚園を開くことになります。これまで以上の感染予防対応の中で、安全に留意し、子どもたちの豊かな経験や確かな学びにつながる幼稚園教育を実践しなくてはならないと身が引き締まる思いです。

今年度、新型コロナウイルスの感染拡大により、当たり前のように行ってきた保育や行事ができないことが多くなりました。教職員は、知恵を出し合い、どうしたら子どもたちの豊かな経験や学びにつながる幼稚園教育を行えるかと考え、実践してきました。

12月の豚汁作りもその一つです。例年、育てたダイコンを年長児が調理していましたが、今年は、感染予防のため取りやめました。しかし、友達と一緒に、種を蒔き、食欲旺盛な青虫と闘い、当番活動として毎日水やりをしながら一生懸命育ててきたダイコンです。教職員は、安全に配慮しながら、豊かな学びにつなげたいと考えました。

前日に、年長児は、密を避け、3人ずつのグループに分かれて、近隣のスーパーマーケットに買い物に出かけました。私の引率したグループの買い物は、ジャガイモ5個でした。子どもたちは、4個入りの袋とばら売りのジャガイモを見つけました。どうするのだろうと見てみると、しばらく話し合ったあと、ばら売りを6個買うことに決めました。互いに納得して様々な役割分担をしたり、自分たちで課題解決したりしながら買い物ができる姿にとっても成長を感じました。

当日は、遊戯室に場を作り、私も含めた教職員が材料を切ることにしました。子どもたちは、密にならないようクラス毎に遊戯室を訪れてその様子を見ました。豚汁には何が入っているかがよく分かったようです。豚汁を食べながら「コンニャクあった」と材料を確認する子どもが多くいました。また、包丁を見て「どうして穴が空いてるの?」と言う友達に、「切ったのがつかないよう穴が空いてるんだよ」と教える子どもの声が聞かれました。友達とのかかわり、情報を得て知識を広げる姿も見られました。

さらに、年長児が各保育室を訪れて「豚汁を食べてね」と伝えたことにより、年中・年少児に年長児への感謝や憧れの姿が見られたそうです。年長児も自分たちの行為が喜ばれていることを実感し喜びを味わえました。

制約の多い中でも、直接的体験や人とのかかわりを通し、豊かな経験や確かな学びにつながる豚汁作りとなりました。

保護者の皆様には、感染への不安に加え、例年との違いや急な変更による戸惑いも多いことと思います。一日も早い感染の収束を祈りつつ、今学期も子どもたちの安全と、確かな学びに向けて教職員一同、力を合わせてまいります。保護者の皆様のご理解・ご協力をいただけますよう、よろしくお願いたします。



グループでの買い物。3人で話し合い力を合わせて買い物をしました。



収穫の様子を見せてもらった年少児は土の中から大きなダイコンがでてきてびっくりしていました。「見ること」も大切な学びの場です。



窓を開け、換気に配慮した遊戯室で材料を切る様子を見ました。豚汁に何が入っているかを理解できました。



ブロッコリーや芽キャベツなど栽培の様子を見る機会がない野菜を育てています。収穫が楽しみです。